

2016.08.26

再びスイスを訪ねて (Part 1)

7月4日 出発

■チューリヒから列車ルツェルンへ

3年前サンモリッツからエンガディン、ベルニナアルプスを南下してルガーノへ回る旅をしたが、今回はチューリヒからスイス中央部をほぼ真っ直ぐに南へ向かう旅になる。

行程の設定は例年通り赤沼敏治さん、志波邦彦さんと我等グループの水沢清美さんの間で詰めてもらったが、旅のスタートを7月4日にすることと、到着直後ルツェルンに寄る希望だけは入れてもらった。

今回のメンバーはガイドの志波さんを含めて10名(男性4名、女性6名)、平均年齢は72歳だが、85歳の私が大きく平均を上げてのことだから、皆に迷惑をかけないように余程頑張らねばならない。



航空会社はカタール航空、1人関西空港から飛ぶ桑原さんはエミレーツ航空だが、何れも最近物騒な話題が多いイスラム圏の飛行機だから、イスラム全てが問題という訳ではないと判っていても多少は気になる。

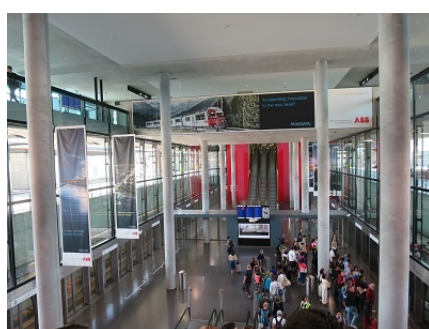
ドーハ経由で降り立ったスイス北の玄関口チューリヒ Zürich は美しい空港として世界的に有名。大阪からの桑原さんもほぼ同時刻に着いたので一行揃ってチューリヒ駅から列車でルツェルン Luzern へ向かう。

広軌で長尺レールだからか実に静かで滑るように走る、2階建ての客車だが自転車と手荷物用のスペースを大きくとってあるのは観光立国スイスらしい。

チューリヒ湖畔から南へ約 50 分、15 時 40 分にルツェルン到着、スーツケースを引いて少し手間取ったが、16 時過ぎ Hotel Astoria にチェックイン出来た。



カタール航空



チューリッヒ空港



自転車と手荷物のスペース

■ルツェルンは妻と訪ねた思い出の地

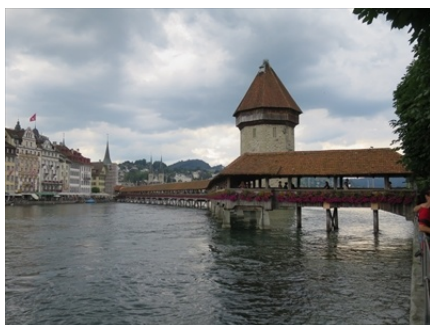
ルツェルンは 13 世紀にサンゴッタルド峠の開通により重要な商業拠点になっただけでなく、原初三州（ウリ、シュヴィーツ、ウンターヴァルデン）といち早く誓約を交わし、ハプスブルグを破ってスイス国家成立の基礎を築いた重要な都市でもある。

ちなみにルツェルンが位置するフィーヤヴァルトシュテッター湖 Vierwaldstättersee（4つの森の国の湖）の南には 1291 年 8 月 1 日原初三州が不可侵の誓約を交わしたリュトリ Rütli の草原があり、伝説上の人ではあるがよく知られたウィリアム・テルにまつわる話も多いなどスイス建国の中心地域（スイスの地方行政区画は 26 のカントン Kanton：州から成る）で、この 8 月 1 日がスイスの建国記念日になっている。

私がルツェルンへの立ち寄りを希望したのは 30 年前家内とこの地を訪れ、この街の象徴であり長く記憶に残っていたカペル橋 Kapellbrücke が 1993 年の火災で 3 分の 2 が消失、地元の熱意で 1 年以内に復旧したと聞くと、その様子確かめたかったことが大きな理由だ。

ヨーロッパ最古の木造橋（1333 年）で湖側を守る要塞でもあったこの橋はロイス川 Reuss に架かる長さ 204m、左岸寄りにヴァッサートルム Wasserturm（見張り塔）があり欄干はゼラニウムで美しく飾られ湖面には白鳥が泳ぐ、その姿は昔と何が変わるころはなかった。

然し橋を渡ってみると、梁に掲げられた守護聖人や街の歴史を描いた 110 枚の三角絵は昔の儘のものもあるが黒焦げになったのも多く、不完全な修復で剥き出しになった白木などと共に火災の傷跡を多く感じられた。



カペル橋とヴァッサートルム



のんびり白鳥が



黒焦げの三角絵

天気の良い昼間なら右にピラトゥス Pilatus 2132m、左にリギ Rigi 1797m が見える筈だが曇天の夕方では僅かにリギ山が見られるのみ、リギにはヨーロッパ最古の登山鉄道 (1871 年) があるが、かの岩倉使節団 (欧米各国訪問 1 年 10 ヶ月の最後にスイスを訪問) が 1873 年 6 月 23 日、セレストール大統領と共に山頂のホテルで行われたこの登山鉄道の完成祝賀会に列席し、宿泊している。

一方のピラトゥスはキリストに処刑を宣告したローマ総督ポンティウス・ピラトの亡霊伝説のため、中世まで登山が禁止されていたが、今や世界一の急勾配 (480 パーミル：千分率) の登山鉄道があることで有名になっている。

カペル橋を渡ってメインストリートのカペル通りを 5 分も歩くと 1370 年に公共の穀物市場が作られたコルンマルクト Kornmarkt に到り、ルネサンス様式の穀物倉庫は現在市庁舎として使われている。

旧市街は多くの観光客で混雑していたが、車両の乗り入れが一切ないので楽に歩ける。

車の消えた石畳を辻音楽士やパントマイムを見ながらのんびり歩くのは楽しい。

更に進むと中世の噴水がある広場で、ルツェルン州が原初三州と誓約を交わしたヴァインマルクト Weinmarkt (ワイン市場) に出る。

此のあたりの建物の壁には見事なフレスコ画 (壁画) が多く思わず足を止めて見上げる、かつてゲーテが滞在したことを示すものもあった。

次いで旧市街の西の要塞シュプロイヤー橋 Spreuerbrücke を渡る、カペル橋ほどではないが 1408 年架橋と古い木橋で、やはり梁に架かる 67 枚の三角絵はペストの大流行を描いたもので「死の舞踏」と呼ばれ後期ルネッサンススイス絵画の傑作とされている。



石畳の女楽士



ゲーテ滞在のフレスコ画



ペスト流行「死の舞踏」

この橋の下を流れるロイス川の水が激しいのを意外に思ったが、すぐ上手に細長く突き出ている Nadelwehr (針の堰) が湖の水位調整をしているため、日本の諏訪湖天竜川河口釜口水門の

ことを思った。

橋を渡ると北の空は綺麗に晴れ上がり、ムーゼック城壁 Museggmauer と 9 本の見張り塔が見える。

此の城壁は 14 世紀後半に完成して、かつては旧市街全体を囲んでいたが現在は 900m を残すのみ、それでも現存する城壁としてはスイス最長と言われている。

再びロイス川を渡ってもう一つの観光スポット Löwendenkmal（ライオン記念碑）へ向かう。

狭い国土に人口過剰で、現在のように精密機器や観光といった外貨獲得手段がなかった中世のスイスは傭兵の海外派遣（血の輸出は 30 万人を越えた）に頼らざるを得なかったが、1792 年フランス大革命の際、チュイルリー宮殿でルイ 16 世、マリーアントワネットとその子供たちを守って 786 名のスイス傭兵が最後まで勇敢に戦い死を遂げた。

ライオン記念碑はこのエピソードに感銘を受けたデンマークの彫刻家が 1821 年に作ったもので、旧市街北東のはずれ、ホーフ教会の建材を採石した 2000 万年前の砂岩崖にある。

脇腹を槍に刺され瀕死の表情を浮かべるこのライオン像をマーク・トウエンは「世界中で最も残酷で動いている岩石」と述べた。現在は勿論この傭兵制度は廃止されているが、唯一ローマ・ヴァチカン宮殿の衛兵が例外としてその名残りを止めている。

スイス最初の食事はヴァインマルクト近くで予約したイタリア料理店 SpaghetteriaValentino で過ごしてからホテルへ、盛り沢山の見学で些か疲れたがルツェルンをしっかり楽しむならそれだけで 2・3 日は充分掛かる筈だと思った。

明日は山へ入るのでスーツケースは明後日のグリンデルワルトへ直送、明日 1 泊分の必要荷物だけをリュックに詰めてからベッドインする。



ムーゼック城壁と見張り塔



ライオン記念碑



見事なフレスコ画

7月6日（水）

■野生の山羊アイベックスの出現

6時半起床、朝食を済ませて8時過ぎホテル発、ルツェルン駅でスーツケースを発送し、リュックに山装備でベルン行の列車に乗車、エメンタール Emmental を走って約 30 分、シュンプハイム Schümpfheim で下車、9時33分発のポストバスでソレンベルグ FlühliSörenberg へ向かう。

アルムとブドウ畑の農村地帯を走りやがて曲がりくねった山間部に差し掛かると、先を見通せないカーヴの度に長々とクラクションを響かせ 30 分走って着いた場所がソレンベルグだった。

目の前に東西に連なるブリエンツァーロートホルン Brienz Rothorn（スイスにはロートホルンと云う山が 3 ダースもあるので頭に地名をつける、ヴァリス州に 17、ベルナー・オーバーランド州に 11）の山並みが迫っている。

1971年に完成したソレンベルク・ロートホルンロープウェイ Luftseilbahn Sörenberg-Rothorn の大型ゴンドラに乗って振り返ると遠く雲間に山々、この中にピラトゥス山もあるのかもしれない。

直ぐに雪の張り付いた崖が迫ってきて、僅か 10 分で稜線の山頂駅 Schönenboden（美しい場所という意味らしい）に到着した。

ブリエンツ湖 BrienzSee を隔ててアイガー Eiger 3970m、メンヒ Mönch 4099m、ユングフラウ Jungfrau 4158m などベルナー・オーバーランド Berner Oberland の山並みが見える筈の南側は残念ながら雲に覆われて何も見えない。

取りあえず今日の宿舎 Berghaus Rothorn Kulm 2266m へ向かうことにしたが、突然右手の高みにアルプスのシンボルの動物、野生の山羊アイベックス Ibex（この地方はドイツ語圏なのでシュタインボック Steinbock という）が数頭現れた、一斉にカメラを向けて暫し立ち止まる。



ルツェルン駅発



ソレンベルグ



アイベックス

昼食の時間には少し間があるので荷物を預けてから近くのピークに登ることにした。

斜めに削られた地層を露わにし、ピラミダルな頂上に十字架が建つ Schongütsch 2320m への歩きは昼飯前の運動としては丁度良い。

■高山植物の多さに驚く

7月初旬がベストシーズンとは思っていたが、この山の高山植物の花の多さは驚くべきもので、帰国してから調べた結果、今日一日で 15 種類の花を見ていた。当然これ以外の見落としも多くあっている筈だから正に花の名山だった。

折角だから色系統別に記録しておきたい、

ブルー系：コッホ・エンツイアン（リンドウ属）、フリューリングス・エンツイアン（同じ）、ヴァルト・フェアギスマインニヒト（ワスレナグサ属）

ピンク系：メンリッヘ・クナーベンクラウト（ハクサンチドリ属）、苔マンテマ（マンテマ属）

白系：アルペン・クーシェレ（オキナグサ属）、アルペン・マルゲリッテ（レウカンテモプシス属）、ツベルクマンズシルト（トチナイソウ属）、アウフレヒテスホルンクラウト（ミミナグサ属）

黄系：アルペン・ヴァンドクレー（アンティリス属）、クルシウス・ゲムスヴルツ（ドロニクム属）、フリューブリュムヘン（サクラソウ属）、クライナー・クラップパートプフ（オクエゾガラガラ属）、トロールブルーメ（キンバイソウ属）、ゴルト・フィンガークラウト（キジムシロ属）

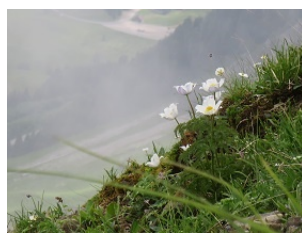
この先、未だ見ていないけれど期待している花も幾つかあるので楽しみだ。



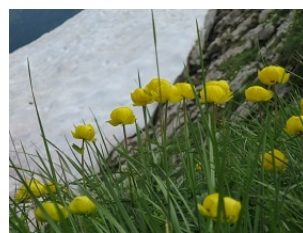
ブルーリンクス エンツィアン



苔マンテマ



アルペンフーシェレ



トロールブルーメ

ベルクハウスへ帰って軽くビールを飲んで昼食をとっているうちに、雲の下からブリエンツ湖と緑の山が見え始めた。

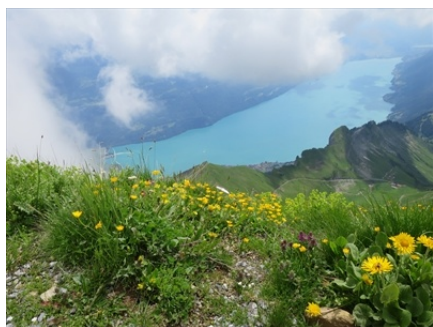
湖の色は得も言われぬ深みのあるトルコ石のような青（turquoise blue）で雲の白、山の緑とのコントラストが素晴らしい。

14時出発、今日の主目的ブリエンツアーロートホルン Brienzer Rothorn 2349.7m の頂上へ向かう。

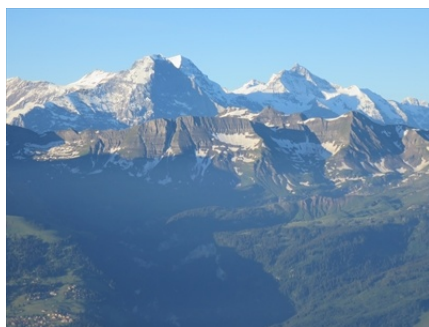
稜線を東へ向かい徐々に高度を上げる、頂上へ回り込む直下に地図苔の着いた岩が置いてあり、貼り付けた銅板にモンテローザ山塊の花崗岩でツエルマットのロートホルン地区（ロートホルンパラダイスの途中か）2700m 地点にあったものをツエルマットロートホルン鉄道が寄贈したとある。

イタリアとの国境を跨ぐスイスの最高峰モンテローザ Monte Rosa 4634m の岩をどうやって運んできたのだろうか。

30分で到着した頂上には石のベンチがあり 10m 程もある三角錐の気象観測器具らしきものが設置してある、本来ここからの眺めは素晴らしいのだろうが、残念ながら雲量多く 360 度の眺望絶佳は望むべくもなかった。



花とブリエンツ湖



Mロ、アガ、ユングフラウ



頂上の気象観測器具

暫く休んでからつづら折りの道を下ってヴィーデルフェルト Widderfeld 方面に向かったが、この道を再び登り返すのは如何にも億劫だし、ゆっくり花の写真も撮りたかったので途中で引き返す申し出でをしたところ同意見の人たちもいて、4人がリターン組になった。

相変わらずシュタインボックがあちこちで姿を見せてくれる、群れて草原に行くものあれば単独で雪渓を横切るものもいる、その性情の程は分からないが人間に無関心であることは確からしい。

宿舎に帰って先にチェックインを済ませた、部屋はホテル形式の2人部屋だが、トイレとシャワーは共通なので皆が帰ってくる前にシャワーを済ませておいた。

時差ぼけのせいか、呼び出されるまでウトウトしていたようで夕食の時間に遅れてしまった。

旅行中の食事のパターンになってしまったが、男性はビールのあとでワイン、女性はスイスの国

民的炭酸飲料リヴェラ Rivella が多かった。

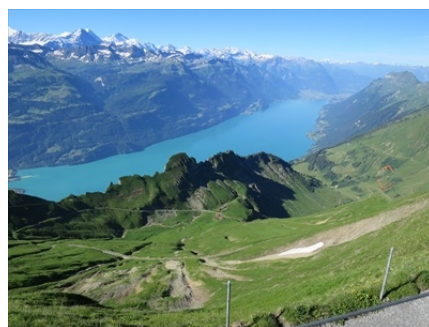
リヴェラはスイスの名産品であるチーズを作る過程で副生する乳清（ヨーグルトの上澄みなど）の利用法として開発されたもので、乳清を 35% 含み、微炭酸、甘味も抑えてあるので飲みやすく、最近では海外旅行者のスイス土産にもなっているらしい。



リヴェラ



ジェラートにホオズキ



ブリエンツ湖をめぐる山々

今日のワインは南部ティチーノ州の赤、メルロー「プラ・ロッソ Pra・Rosso」、野菜サラダに豚肉料理、添え物のポテトチップスが山のよう、デザートのジェラート（アイスクリーム）にホオズキが添えてあるのに一寸びっくりしたが薄い甘味が付けてあり美味しく食べられた。

食事中、ポルトガルから来たという青年ウェイターが片言の日本語を使ってお相手して呉れたのはご愛敬だった。

21 時就寝。

（Part 2 に続く…）